



節ないし局面を生じる。これに血管腫の要素を伴うものを ec-crine angiomatous hamartoma といい、四肢に好発する。

6. アポクリン母斑 apocrine nevus

脂腺母斑ではアポクリン腺の増殖を伴いやすいが、ごくまれにアポクリン腺の増殖のみを認める過誤腫があり、これをアポクリン母斑という。頭部または腋窩に生じる丘疹、小結節である。

C. 間葉細胞系母斑 mesenchymal-cell nevi



図 20.25 結合組織母斑 (connective tissue nevus)

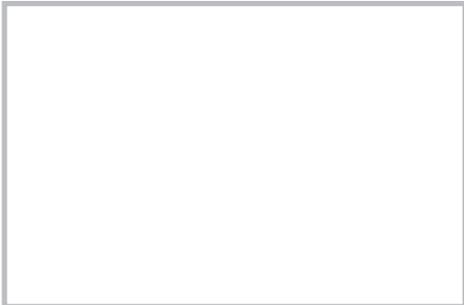


図 20.26 Buschke-Ollendorff 症候群に生じた結合組織母斑
右季肋部に弾性線維の増加による局面がみられる。
常染色体優性遺伝。

1. 結合組織母斑 connective tissue nevus

膠原線維，弾性線維ないしムチンが増生した結果，主に体幹に正常皮膚色の軽度隆起した局面や結節が出現する（図 20.25, 20.26）。種々の基礎疾患を背景に生じることが多い（表 20.1）。

2. 表在性皮膚脂肪腫性母斑 nevus lipomatosus cutaneous superficialis

脂肪細胞が真皮内で異所性に増殖し，直径数 cm までの軟らかい黄色結節を生じる（図 20.27）。先天性のものと成人になって生じるものがある。

3. 軟骨母斑 cartilage nevus

軟骨を含んだ，半球状で正常皮膚色の丘疹が出現する。耳周辺で生じたものを副耳（accessory auricle, ear tag）と呼ぶ。胎児期鰓弓発生障害に伴う。

4. 平滑筋過誤腫 smooth muscle hamartoma

同義語：平滑筋母斑

立毛筋部の過誤腫（図 20.28）。腰部，仙骨部に好発し，生後 6 か月以内に発症することが多い。境界がやや不明瞭な淡褐色斑で，しばしば多毛を伴う。

表 20.1 結合組織母斑を生じる基礎疾患



図 20.27 表在性皮膚脂肪腫性母斑 (nevus lipomatosus cutaneous superficialis)



図 20.28 平滑筋過誤腫 (smooth muscle hamartoma)

D. 皮膚の色素異常を伴うその他の母斑 other nevi with skin color change

1. カフェオレ斑 café-au-lait spot (macule) ★

境界明瞭な直径 0.5 ~ 10 cm の淡褐色斑で、皮膚色以外の変化を認めない (図 20.29)。多くは生下時に出現し、2 ~ 3 歳までに明瞭化する。単発のものは健常人の約 10% でみられる。病理組織学的にはメラノサイト系母斑細胞の増加はなく、基底層でメラニン顆粒の増強を認める。カフェオレ斑が多発する場合は神経線維腫症 1 型や McCune-Albright 症候群、Legius 症候群などを疑う。治療はカバーメイクアップや一部の症例では

McCune-Albright 症候群 ★

MEMO 



図 20.29 カフェオレ斑 (café-au-lait spot)